

## 西国第二十六番 法華山

御本尊／聖観世音菩薩 開基／法道仙人

## 天台宗 一乗寺

## 慈悲の道

山主 太田實秀

花の意に 遠きまなざし 観世

音

「賽の河原」ここも靴跡 春の

雪

春光を 眩しと露仏 目を細め

飛び交いて 鳥語う春の 木よ

り樹へ

無患子の 花地に流れ 日々の

雨

法師蟬 塔描く少女 今日も来

て

右の俳句は、一乗寺の季の移

ろいを折り込み詠まれた作品で

あります。法華山は花のみならず、原子の林に鳥たちを遊ばせ、

一木一草にいたるまで、観音様

のあたたかいまなざしが注がれ

ています。本堂へ続く長い石段

を、一段一段踏みしめて登って

こられるご参拝の方々と目札を

交わし、またある時は、「よう

こそおまいり」とお声がけした

り、一期一会のふれ合いに心が

和むのであります。

先日も青年がひとり、境内のあづまやに腰をかけて休んでおられ、挨拶を交わしたところ、度々参拝されているとの事。「僕はこうしていると、自分も自然の一部なのだという思いがして、心が落ち着いて肩の力がぬけ、疲れが取れていくのがよくわかるのです。」と仰いました。

ご参拝の方々は云うにおよばず、遠足の保育園児、写生大会の小学生たちが、成長の折々に観音様のあたたかいまなざしに触れる機会に恵まれ、心豊かに育ちゆく姿には、まこと明るい光がさしている様に思えるのであります。

今の世は、有り余る文明の利器に囲まれ、インターネットを使えば、さまざまな人々の意見や情報を手に入れ、自分の考えを簡単に発信することもできます。皆がそれぞれの考えを主張する場があるのは、素晴らしいことですが、現実の世の中が、時にギスギスしていると感じら

れるのは何故でしょうか。憚ることなく自分の意見を云う、自己主張を通すことにこだわり、受け取る側の気持ちに考えが及ばない、ということはないでしょうか。せっかくの意見交換の場が、ただの言い騒ぐ場所になっっているのを見聞きすると、残念でなりません。ほんの少しの心の余裕から思いやりや共感が生まれ、お互い過ごしやすい社会に近づくことができるのではないかと思うのであります。

